

J Sights Corporation

データで見る日本のシトラス系濃縮果汁の輸入実態

2024 年 5 月 15 日

J サイト株式会社 担当:島尾

[お問い合わせ](#)

日本国内では、大手飲料メーカーによるオレンジジュース商品の一部販売を休止するとの発表が相次いでいる。当社でも **USDA Foreign Agricultural Service (USDA 海外農務局)** のレポートを含め都度市況を分析している通り、米フロリダ・カリフォルニアの天候不順・樹木の老齢化と、ブラジルの不作に端を発する世界的なオレンジ果汁不足はいよいよ私たちの台所にも影響が広がってきた。

記録的な円安の動きも重なり、国産回帰の声も高まる一方、国内でも農家の高齢化等、簡単に増産できるものではない。本レポートでは当社で扱っているグレープフルーツと、話題のオレンジに焦点を絞り、輸入商社としてこれまでの日本の輸入状況と今後の展望について考察する。

1. [USDA シトラス系果実の国際貿易市況レポート](#) (2024 年 1 月発表) サマリーと見解

グレープフルーツ：

2023-24 の世界全体の予測生産量は 690 万トンと昨年より微増。ここ 6 年間はほぼ横ばいの生産量である。南アフリカは生産量こそ 5%減少するもダーバン港の操業が正常に戻り、輸出量は増加すると予測。米国の生産量は 6%増の 31 万 6,000 トンで、フロリダ州の生産量が前年のハリケーン・イアンの影響から回復してきていることが分かる。メキシコは生産コストと物流の高さによって成長が抑制され、2%増の 50 万トンの予想。トルコは今年度は好天により凍結回復が促進され、10%増の 21 万 7000 トンになると予測されている。ロシアと EU が最大の輸出相手国。

オレンジ：

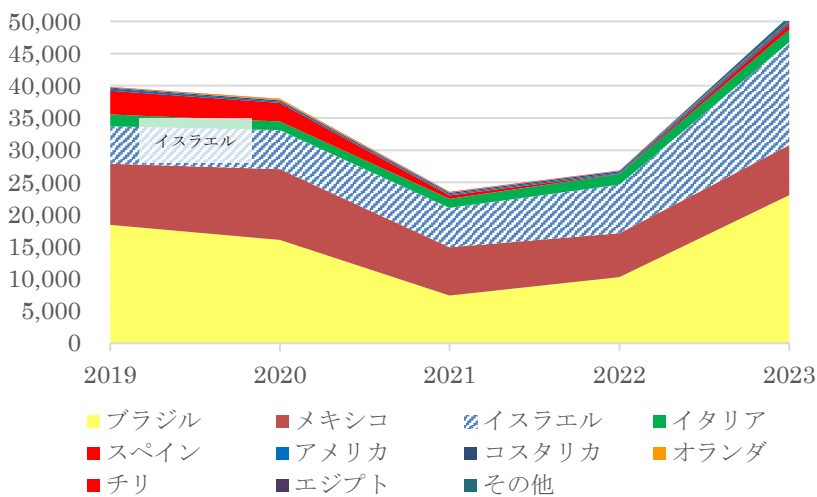
2023-24 の世界全体の予測生産量は 4,880 万トン。ブラジルや EU 諸国の不作をアルゼンチン、アメリカ、トルコの好調さで補い、昨年よりは上向き。ハリケーンで深刻なダメージを受けた米フロリダは天候に恵まれ 30%アップと持ち直しを図り、米全体での予測は 250 万トン。ブラジルは悪天候の影響で約 10%減の 1,650 万トン。レポートでも冒頭に取り上げられていた注目すべき国はエジプトで、輸出量は昨対 25%増の過去最高の 200 万トンに達する見込みで生鮮果実の輸出として首位を維持。政府・生産者・輸出業者が組んで競争力強化の投資が進んでいる。害虫や病気を制御するために総合的病害虫管理 (IPM) アプローチを使用し、可能な限り環境に配慮した方法で害虫防除にも努めている。エジプトの現在の主要輸出相手国(※)は、オランダ、ロシア、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、スペイン、バングラデシュ、シリア、中国、英国で、主力品種はネーブル・バレンシア・スウィート・バラディ。ジュースへの加工・輸出を得意としている国にとっての原料調達先としても今後の動向を注目したい。

※参照：[USDA エジプトにおけるシトラス年間見通し](#) (2023 年 12 月発表)

J Sights Corporation

2. 財務省貿易統計からみる日本の果汁輸入の現状と主要貿易相手国

【図1】日本のオレンジ冷凍果汁の輸入量(トン)



分類 2009.11：オレンジジュース / 冷凍したもの

図1は「2009.11 オレンジジュース/冷凍したもの」の過去5年間の輸入通関統計である。

2021年：25,132 トン

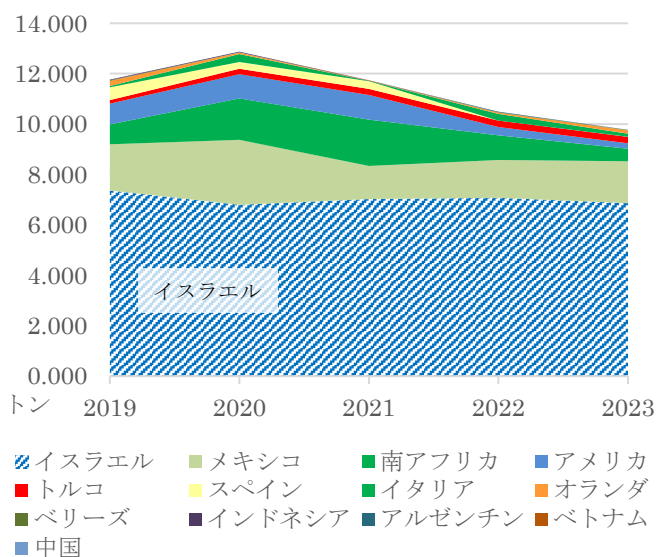
2022年：22,750 トン

2023年：48,552 トン

と物量だけで見ると2021年を底に年々増加、2023年に至っては過去10年で最も多く輸入している(参考1)ようだが、これが今後の国内の果汁製品と、どの程度関連してくるのかは注視していく必要がある。

一方グレープフルーツ果汁は、2020年をピークに減少傾向にあるものの、オレンジ果汁のようなインパクトのある増減はなく、需要に対して安定した供給量を確保できている。(図2) 特に当社でも扱っているイスラエル産と、規模は小さいながらもトルコ産については5年以上、年度ごとに数量がぶれることなく、安定的に輸入できていることが分かる。

【図2】日本のグレープフルーツ冷凍果汁輸入量



分類 2009.29

グレープフルーツジュース及びボメロジュース/その他のもの

3. 当社が取り扱うその他の国からの果汁について

当社では、イスラエル・トルコ産以外でも、ギリシャ産やイタリア産など主に地中海を囲む各国からの果汁を取り扱っている。

EU 諸国の今年度のシトラス収穫量は、各地で過去最高の気温を観測した昨年に比べ、多少の増程度と見込んでいるが、需要減により国内消費が低迷路線のため、輸出に回せる果実が増えると予想されている。価格は例年他地域と比較すると高い傾向にあるが、上述の国内需要を考えると、これまでよりは優位に交渉できると見込んでいる。

J Sights Corporation

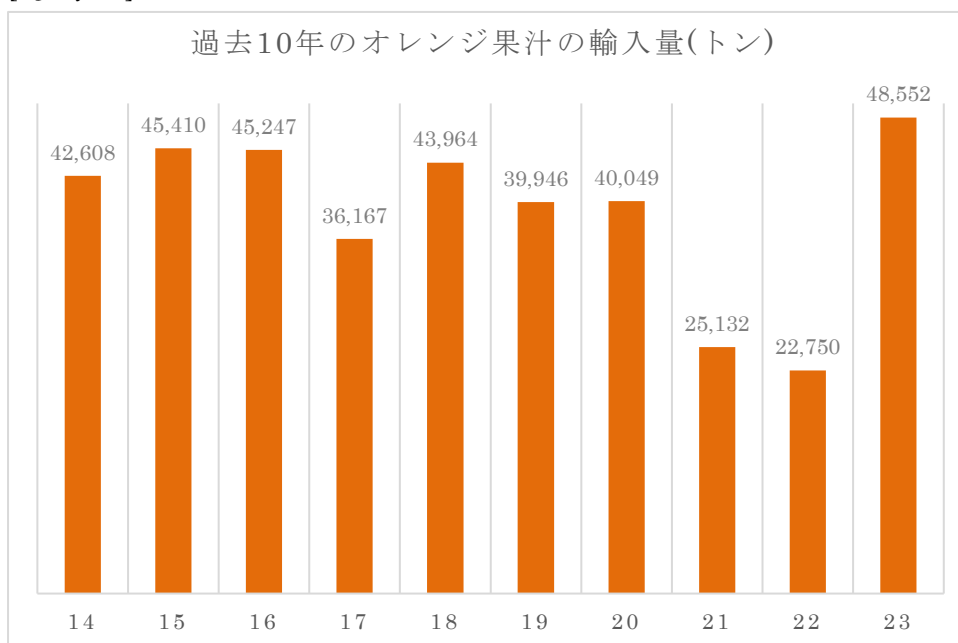
4. 今後の動向に関する見解

上記のデータからも分かる通り、イスラエル・トルコ産の果汁は安定的に供給のできるサプライヤーが存在し、輸入を続けられている相手国ではあるが、紅海を避けたルートでの海上輸送や戦闘地域のすぐ近くを通る運航などのカントリーリスクは常に含んでいる。地域柄、もちろんこれまでもそうした危機を回避せねばならない事態は定期的にあり、商品・ルート確保のノウハウは蓄積している。

今後は更に、現存商品の安定供給に留まらず、取扱可能な様々な地域・サプライヤーからの輸入量も増やし、全体でリスクを分散していく必要があると考えており、今年はそれに向けた戦略を立てて動いている。

詳細はぜひお問い合わせください。

[参考 1]



※ 分類 2009.11
オレンジジュース
/ 冷凍したもの